

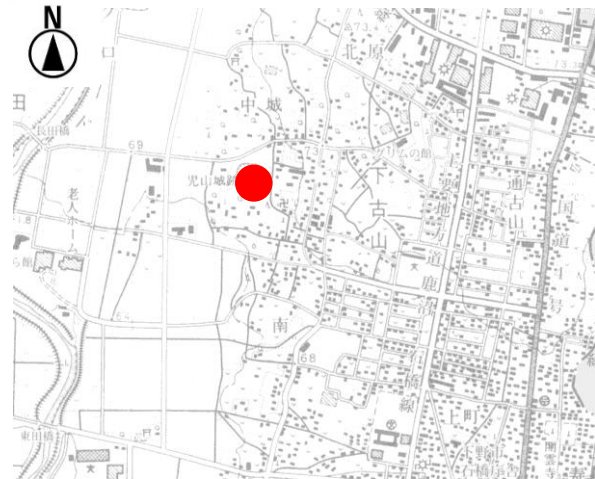
こやまじょうあと

児山城跡の発掘調査(H30)

—範囲内容確認調査—

【児山城跡の概要】 栃木県指定史跡(昭和36年5月6日指定)

児山城跡は、姿川東岸の台地端部に所在しています。自然の地形を巧みに利用した平城で、鎌倉時代の後期(約700年前)に多功城主(上三川町)、多功宗朝(むねとも)の次男朝定(ともさだ)により築城されたと伝えられます。城の遺構は本丸を中心に良く残っており、本丸の堀と土塁(どるい)はほぼ全周し、規模は東西約80m、南北約90mになります。また、本丸周辺にも部分的に堀や土塁が残されており、地名として本城、西城、中城、北城、稻荷城等も残されていることから、児山城が複郭であり、かなりの規模の城郭であったと考えられます。平成28年度からは、範囲や遺構の遺存状況を確認するための調査をおこなっています。



【発掘調査の概要】

平成29年度の調査では東側第2郭の東端に土塁があったことがわかりました。土塁は2時期確認され、2時期目は1時期目の土塁をひと回り大きく造り変えていました。郭の上面には土塁に伴い2時期の生活面がありました。

東側第2郭に付随する堀は底面が6m以上ある箱堀で、自然に埋まったことがわかりました。

平成30年度は、昨年引き続き第2郭の調査を実施しました。

今年度調査を行った第2郭南東部は、郭の上面が後世に大きく掘削されているため、遺構の状態は良くありませんでしたが、平成29年度の調査同様に郭の上面で2時期の生活面が確認できました。第2郭南辺の土塁は、1期目の土塁の基底部分と推測できる場所が部分的に確認できました。

また、堀は2時期確認できました。1時期目の堀は底面が平らな箱堀になっており、下層が自然に埋まった後に土塁の土で埋戻したと推測され、その後、2時期目の堀を掘っていることがわかりました。2時期目の堀は底面付近が狭く一段深く下がる薬研堀になり、形状が変化します。2時期目の堀は、途中で人工的に埋戻しはされずに自然に埋まった状況も確認できました。

平成29年度の第2郭東部中央付近の調査では、2時期確認できた土塁は同じ位置でひと回り大きく造り変えていましたが、今回の調査では、1時期目の堀が土塁の土で埋め戻されている状況と、2時期目の堀の形状が変化していることがわかりました。

堀の形状



※箱堀: 逆台形の断面をもつ、底の平坦な堀。水堀に多用される。

※薬研堀: 底がV字形の尖った断面をもつ堀。薬研の窪みに形状が似ていることに由来する。底部の通行が困難であるため、空堀に使われることが多い。



国土地理院 米軍撮影航空写真 1948



平成29・30年度 児山城跡調査位置図



第2堀南東部断面状況 (南東から)

児山城跡発掘調査現地説明会資料 (2019.3.10)
 編集・発行 下野市教育委員会文化財課
 〒329-0492 栃木県下野市笹原26
 TEL 0285-32-6105
 bunkazai@city.shimotsuke.lg.jp

